

論文

公立小学校のリズムダンス授業における実践的研究 －男性教員の指導力向上を目的として－

A Practical study on the rhythm dance classes of the public elementary school
for the purpose of male teacher instruction improvement

常行 泰子 (高知大学教育学部)¹

TSUNEYUKI Yasuko¹

¹ *Faculty of Education, Kochi University*

ABSTRACT

The purpose of this study was to practice rhythm dance classes in the physical education at public elementary school by a professional dance instructor and identify the effective instruction methods of the dance classes by the male teacher. The interview for male teachers was conducted on May in 2012, while the modern rhythm dance classes of the public elementary school developed subsequently for the purpose of male teacher instruction improvement.

As a result, the following points were shown: 1) The class observation of the rhythm dance conducted by an expert potentially raised the readiness of the male teacher. 2) For the male beginner teacher, it was effective to constitute a class depending on his physique and agility of the movements. 3) The male teacher was able to easily work with the steps included in the daily movements such as walking or kicking etc. 4) It was apparent that repetitive combinations using simple movements were important to schoolchildren inexperienced with dance. 5) It was effective for the development that schoolchildren were able to easily learn by introducing movements such as “repositioning” or “posing”. 6) It appeared that slow tempo music made the practical skill and instruction easier for the male teacher.

The class of the modern rhythm dance seemed to be difficult education with anxiety and pressure in the male teacher at first. But it was possible enough to receive a high evaluation by repeating observing a class and self-learning.

I. はじめに

わが国におけるこれまでの体育授業では、武道は男子、ダンスは女子の学習内容として位置付けられてきた。平成20年3月に告示された中学校学習指導要領の改訂を受け、新学習指導要領では中学校保健体育において、武道・ダンスを含めたすべての領域が必修となった。小学校では、すでに単元学習と運動会・体育祭を始めとする全校行事等でダンスや表現が導入されているが、HipHopやFunk等の現代的なリズムダンスを専門的に指導し得る教員は未だ十分とは言えない。特に男性教員におけるリズムダンス指導は、指導力不足を始め、いくつかの課題が指摘されており（中村, 2013; 酒向ら, 2016）、男性教員を対象としたリズムダンスの指導力向上を目的とした研修やセミナーの開催、さらに指導内容・展開に関する知見の蓄積が期待される。

高知県においては、日本女子体育連盟の県支部に位置付けられている高知県女子体育連盟が、各種ダンス・表現や民謡等の指導内容・方法等について情報を公開している。毎年2回、幼保部と小学校以上の校種を対象とした教員と院生・学生・生徒の実技力と指導力の向上を目的に、各種セミナーや研修を展開している。教員の授業実践に関する内容が多く含まれているため、幼稚園から小・中・高等学校を始めとする教員や大学関係者、一般の人々を対象としてダンス・表現の指導実技と指導方法について情報を収集することが可能な組織団体である。

しかしながら、男性教員においては、教材開発研究やダンス指導法に関する研修・セミナーの実施率が低いと指摘されており、指導に対する消極性の問題も挙げられた（中村, 2015）。ダンス・表現に対する恥ずかしさや不慣れといった男女における違いもその理由として推察される。そこで、本研究では男性教員の実践的指導力の向上を目的に、現代的なリズムダンスの授業実践を行った。小学生を対象に適切な授業展開となる指導内容・方法を検討することは意義があると考えられる。本研究の目的は、公立小学校の体育授業で現代的なリズムダンスを実践し、男性教員の授業展開に有効な指導内容・方法を検討することであった。

II. 高知県女子体育連盟の概要

高知県においては、ダンス・表現・フィットネス領域を重視した各種研修とセミナーを展開する組織団体として高知県女子体育連盟が設置されている。

本連盟は、日本女子体育連盟の県支部と位置付けられており、①一般部、②学校部、③幼保部、という三部会から構成されている。そのうち、一般部と学校部は合同でサマーセミナーを毎年1回開催し、主に学校教育の現場で役立つダンス・表現の講習会を実施している。また、幼保部は保育と幼児教育の領域から幼児のダンスや表現運動・遊び

について情報を公開し、保育者や幼稚園教諭を目指す専門学校生徒の育成や関係者の指導力向上を目指している（山田, 2015）。

【設立】1965年11月

【構成組織】一般部・学校部・幼保部

【歴代会長】大西賀寿恵（昭和40－50年）

大西喜代（昭和51－54年）

山崎美智枝（平成元－22年）

山田敦子（平成23－現在）

【研修・セミナー題目】（一部抜粋）

1. みんなダンサー！（表現運動の授業作り）

講師：公立小学校教員・高知大学名誉教授

2. Let's dance USA

講師：高知県女子体育連盟幼保部（幼稚園教諭・高知福祉専門学校教員）

3. 表現運動の授業づくり～小学校中学年の表現運動

表現・リズムダンス

講師：高知大学附属小学校教員

4. フォークダンス・民謡

講師：一般部

III. 研究方法

1. 調査対象

調査対象者は、高知県高知市に所在するA公立小学校の児童であった。

2. 調査方法

2012年5月、クラス担当である男性教員を対象にヒアリングを行った後、現代的なリズムダンスの授業を実施、高知県女子体育連盟が提供する指導内容や展開を踏まえた指導内容・方法について検討した。

3. 授業実践までの経緯

研究会において、男性教員が現代的リズムダンスを実施することになったため、ダンス指導に関する内容・方法等のスキルを習得する必要があった。教員の要望に合わせ、学校行事・スケジュールに沿ったヒアリング及び研修内容が実施された。

まず一学期は、運動会の組体操の中に現代的なリズムダンスを組み込み、児童が発表する。曲はHipHopを使用し、5分程度踊る予定である。また、夏期休業期間中は、研究会に向けた指導案等を作成して、ダンスの実技講習を受講するなど自己学習に活用する。約2週間程度は、体育館の使用ができない状態となる。二学期は、2012年11月に開催される研究会までの期間、授業研究のリハーサル等を実施する。高知県の教員・関係者が多数参加し、授業の実践内容や展開について豊富な情報と技術向上が必要と考えられた。

4. 授業概要

【授業実施日及び打ち合わせ】 2012 年 5 月 9 日（水）、
同 5 月 16 日（水）

【指導対象】 高知県高知市の A 公立小学校 6 年生 35 名

【授業実施者】 高知大学教育学部教員
(ダンス指導歴 17 年)

本研究において男性教員は授業を観察し、現代的リズムダンスの指導内容・展開、振付構成のための情報を収集する観察者として位置付けられた。

IV. 結果と考察

1. ヒアリングについて

男性教員は、これまでダンス・表現に関する研修・セミナーの受講経験がほとんどなかったことから、現代的リズムダンスの指導に関してヒアリングを実施した。その結果、児童を対象とするダンスの授業内容・展開に対する不安や恐怖心が明らかになった。

「知り合いの先生に言われて研究会の発表をすることになったんだけど、本当に不安。ダンスとかやったことないし。大学院生がやっているのは観察法？で見せてもらったけど・・・よくわからなかった。子どもの前で実際にやってみせてほしい」と口述し、現代的リズムダンスの指導経験が豊富な大学教員の授業内容と展開について高い興味・関心が示された。

「リズム感のない子や運動が苦手という子でもできるダンスってあるのかな」と、ダンス未経験者でもできる動きの提供や隊形移動等について情報を習得する意欲がみられた。ダンスの動きやステップ構成よりも、児童がダンスに対して有能感を高め、自己肯定感を持つことができる授業内容・展開を期待している様子が明らかにされた。授業のねらいや指導案等についての質問等は出なかったことは、普段から児童とのコミュニケーションを密接にとっていることが理由として推察される。その他、一般的な体育授業の内容・展開について十分な経験のあることが示唆された。

2. 現代的なリズムダンスの授業内容・展開について

授業実践は、小学校の音楽室を利用して実施された（写真 1、写真 2）。児童は体操着に着替え、室内シューズを履いてリズムダンスを実践した。

授業内容と展開については、以下のとおりであった。

【授業前】

授業概要の説明を男性教員が行った。音楽室に集合した児童は、授業の内容・展開について説明を受け、興味を持った様子であった。外部指導者に元気に挨拶したり、友人同士で話をする等、現代的リズムダンスの授業実施に期待を抱く状況が示された。運動会で発表する旨を聞いた児童らは、口々に感想や意見を述べ、高い関心が示された。



写真 1 デモンストレーションの観察的学習



写真 2 グループごとの練習・リハーサル

【授業中】

(1) 導入

準備運動を実施した後、教員・児童がアイコンタクトを取り、動きが見やすい位置に移動した。曲は、BPM100-105の曲を中心に、児童に聞き取りやすい、スローテンポな曲調の HipHop から選曲した。いずれも 8 カウントでひとまとまりになるシンプルな曲の構成であった。リズムを手拍子でとることや「ワン・ツー・スリー・フォー」「1・2・3・4」「ドンドン」等の言葉掛けやオノマトペに合わせて動きを伝え、ダンスが持つ世界観へのレディネス（準備性）を高めた。基本的に 8 カウント×4 の 32 カウントからなる HipHop の曲に合わせたコリオグラフィーは、以下の内容・展開で実施した。

(2) 展開

Part1 (0:10)

8 カウント×2 間奏

Part2 (0:20)

8 カウント リズムダウン 正面

8 カウント 斜め 左

8 カウント 斜め 右

8 カウント リズムダウン 正面

Part3 (0:40)

8 カウント 重心移動 右、左

8 カウント ポーズ

Part4 (0:50)

8 カウント 前方へ歩くリズム 4 でキック、後方へ置く

8 カウント 反復

8 カウント Side step

8 カウント 反復

Part5 (1:10)

8 カウント 前方へ歩くリズム 4 でキック、後方へ置く

8 カウント 反復

8 カウント Side step

8 カウント 反復

Part6 (1:30)

8 カウント 前から順に低姿勢でポーズ

8 カウント 前から順に立位

8 カウント 左上パンチ×2

8 カウント 反復

Part7 (1:50)

8 カウント ランダム移動、ハイタッチ

8 カウント 反復

8 カウント ランダム移動、ハイタッチ

8 カウント 連続キック×3

Part8 (2:10)

8 カウント 歩いて、横一列に隊形変化

8 カウント 反復

8 カウント アームスウェーブ

8 カウント 同上

Part8 (2:30)

8 カウント 歩いて、縦一列に隊形変化

8 カウント 反復

8 カウント 頭のみ変化

1・2 出す 3・4 戻す 5・6 出す

7・8 戻す

8 カウント アームス 1・3・5・7 で 4 回伸ばす

Part9 (2:50)

8 カウント グループごとに円を描く

8 カウント 反復

8 カウント 反復

8 カウント ポーズ、声を出す

(3) 使用した主なステップ・上肢・全体の動き

本授業の対象者の多くはダンス未経験者であり、小学校 6 年生を対象とした発達段階を考慮し、単純な反復を用い

たシンプルな動きを利用した。男性が教員は身長が高かったため、体格を活かして上肢と下肢をバランスよく動かし、指導可能な動作を多用した。また、「動く」内容だけでなく、「移動」「静止」等多様なバリエーションを導入し、児童が覚えやすい展開となるような工夫を行った。さらに、高低を変化させ、空間のひろがりを感じられる表現技法を導入した。

- ・アップリズムによるウォーキング
- ・サイドステップ (図 1)
- ・上肢の曲げ伸ばし
- ・立位と床でのポーズ

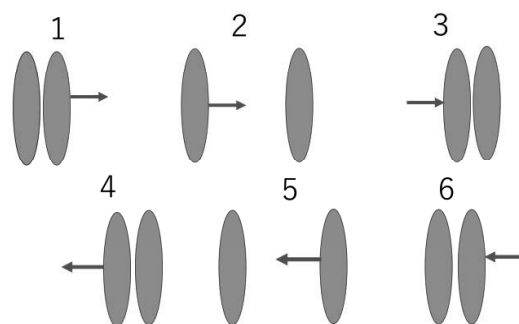


図 1 サイドステップのフットパターン

(4) 授業のねらい

観客が見て「楽しめる」「変化がある」振付を構成した。即興表現の重要性は多くのダンス・表現の教材で示唆されているが、本研究の成果は運動会や研究会で発表・評価されるため、「楽しむこと」「リズムに乗って曲を感じることを重視した内容とした。運動会や研究会においては、面の向きやスピードの変化が重要と考えられたため、いくつかの指導ポイントを強調して設定した。「恥ずかしがらず」「大きく動く」「お友達と協力する」をテーマとして授業目標を定めた。

(5) デフォルメ

全国ダンス・表現運動授業研究会が提示するデフォルメの視点(2011)を参考に、対象者の状況に合わせて以下のテクニックを導入した。導入したデフォルメの多くは、ダンス未経験者や初心者に対応し得る技術的側面があると考えられた。下記デフォルメのうち、集団性の変形において「カノン」の技法については、練習量が多く必要であった。児童の協調性や集中力を高めるための技法として本研究では導入したが、児童らはいかに観客へアピールできるかについて話し合い、相互に観察をしながら練習を積み重ねている状況が明らかになった。

【時間制の変形】

- ・単純動作の反復
- ・スローモーション

【空間性の変形】

- ・ 特大スケール
- ・ 高低の変化
- ・ 向きの変化
- ・ 移動の変化
- ・ 進行方向の変化

【集団性の変形】

- ・ 全員一緒に（ユニゾン）
- ・ 順番に追いかける（カノン）（図 2）
- ・ 左右対称に（シンメトリー）
- ・ ランダム（図 3）

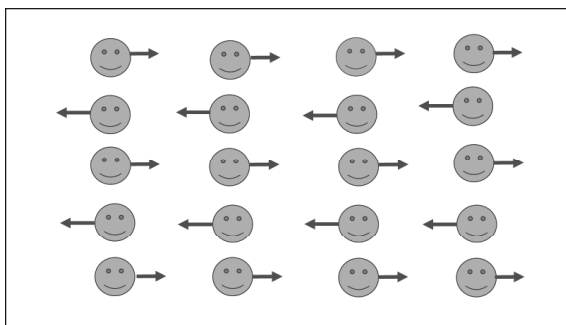


図 2 カノンの隊形

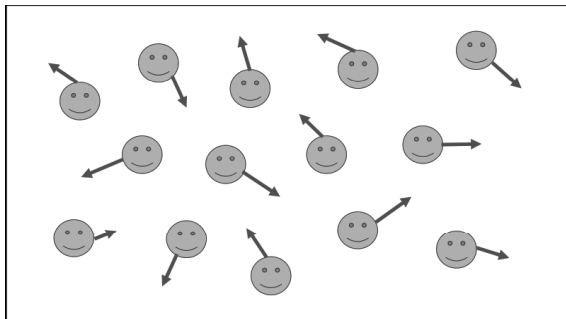


図 3 ランダムの隊形

【その他】

- ・ 強一弱
- ・ 上肢のアレンジ

(6) 統括

児童が自主的にグループ練習できる時間を確保した。「思い切り身体を動かして」「音楽が流れたら各グループで行いましょう」等の言葉がけを用いて、笑顔で踊るように指示を出した。また、オープンクエスチョンによる問いかけも行った。最終的に、教員のインストラクションがなくても、児童らはグループで協力して練習やリハーサルを実施している状況が示された。

【授業後】

「お友達とよく協力したね」と声をかけ、笑顔で動くこ

とや間違えずに踊るためには練習を継続することが重要である点を伝えた。クールダウンを行い、児童らは互いに振り返りを行い、終了した。

3. 授業実践後の状況について

授業実践後は、男性教員が単独で振付を構成し、児童へ指導を行った後、運動会にて発表した。組体操を行う合間の時間に HipHop の曲を利用して、6 年生がリズムダンスを実践した。児童の表情は真剣で、集中している様子が観客に伝わった。振付を間違えることなく忠実に再現し、十分に練習量が確保されていた状況が明らかになった。

また、授業研究会は多数の教育関係者が参加し、児童の集中力が一層増した状況が伝えられた。「素晴らしい児童の様子がみれた」「指導はとても良かったと思う」等の肯定的な高い評価が他の教員より示された。上述したとおり、施設利用の稼働等で十分な場所は確保できなかったものの、本授業研究や研修等への参加が男性教員の指導力向上に大きな動機付けとなった点がわかる。

IV. まとめ

本研究では、公立小学校の体育授業でリズムダンスを実践し、男性教員がダンス授業を実施する上で有用な指導内容・方法を検討することであった。小学 6 年生 35 名を対象とした授業実践の結果から、以下の点が明らかになった。

- 1) 専門家が行うリズムダンスの授業観察は、男性教員の指導におけるレディネス（準備性）を高める可能性が示された。
- 2) 初心者である男性教員の場合、体格や動作の機敏性に応じて授業を構成することが有効であった。
- 3) 日常動作に含まれるステップを用いることで、男性教員が取り組みやすい状況がみられた。
- 4) ダンス未経験の児童には、シンプルな動きを利用した反復動作の組み合わせが重要と考えられた。
- 5) 「移動」「静止」等の動きを導入することで、児童が覚えやすい展開となった。
- 6) スローテンポな曲を使用することにより、実技と指導にゆとりをもたらすことが示唆された。

本研究は女性教員を対象としていないため、技術や指導力に関する性差については言及できない。しかしながら、男性教員における上肢・下肢の体格やバランス、動きの機敏性等を考慮した指導内容や展開を検討することが必要であろう。現代的なリズムダンスによる授業は、公立小学校の男性教員において当初不安とプレッシャーを抱える困難な教育実践であると考えられたが、ダンス指導者である大学教員の授業を観察し、自己学習を積み重ねることで高い授業評価を受けることが本研究の事例から可能であると推察された。

引用文献

- 與儀幸朝・金城昇・小林稔（2012）パフォーマンス課題・評価を取り入れたダンス授業の比較的研究：男性教員による男女共習における実践を通して．琉球大学教育学部紀要, 81, pp.315-326.
- 本間知可（2017）体育・保健体育 リズムダンスにおける即興表現の楽しさを味わわせる指導の工夫：「やってみる・ひろげる」を位置付けたゴールフリー学習を通して．教育実践研究, 27, pp.145-150.
- 村瀬瑠美（2018）保育者養成過程におけるリズムダンスの指導についての一考察：オノマトペの持つリズム性に着目して．千葉敬愛短期大学紀要, 40, pp.341-349.
- 中村恭子（2013）日本のダンス教育の変遷と中学校における男女必修化の課題．スポーツ社会学研究, 21(1), pp.37-51.
- 中村恭子（2015）中学校の実態調査ーダンス男女必修化に伴う変容と課題．多様性の捉え方をめぐってーダンス授業におけるジェンダーを考える．ダンスとジェンダーー多様性ある身体性ー猪崎弥生・酒向治子・米谷淳編．一二三書房.
- 酒向治子・竹内秀一・猪崎弥生（2016）中学校保健体育科の男性教員のダンスに対する意識：語りの質的検討．スポーツとジェンダー研究, 14, pp.6-20.
- 田島正浩・細川江利子（2017）リズムダンスのサンバの学習指導に関する研究：ー教員養成系 G 大学での授業実践を通してー．日本女子体育連盟学術研究, 33, pp.55-73.
- 山田敦子（2010）学校体育におけるダンスの指導内容・方法を考える視点と具体的事例ーはじめてダンスを踊る・つくる・みる段階．高知大学教育実践研究, 24, pp.59-72.
- 山田敦子（2015）日本女子体育連盟創立 60 周年記念誌 第 3 章 各県加盟団体活動 高知県女子体育連盟～からだが動けばこころが動く～.
- 全国ダンス・表現運動授業研究会（2011）デフォルメの視点…教師が抑えておきたい助言のポイント．大修館書店. pp.25-25.